

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800086		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岩国平田		
所在地	山口県岩国市平田5-27-55		
自己評価作成日	平成26年11月3日	評価結果市町受理日	平成27年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家は、全国220箇所以上のGHを展開させて頂いております。愛の家グループホーム岩国平田は、中四国九州エリアと地域としては広いですが、他の愛の家の情報共有が行える体制を作っており他、ホームへの行事手伝いに参加しております。又、ホームでの「夏祭り」等を通じて、地域との連携を意識した運営を実践しております。その他日々利用者様お一人おひとりのADLに合わせたケアを行い、寄り添ってのコミュニケーションを行っております。周囲の自然を満喫しながらの散歩・近隣のスーパーへの買い物・園芸・食事やおやつ作り、定期的な外出(夕食)、近隣幼稚園児の訪問等、ご利用者様の「想い」に寄り添ったケア、そして日々充実した時間を過ごせる様、又出来る限る時間を見つけては短時間でも外出をする様、心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自治会に加入され、職員は川の清掃や会議に出席されている他、利用者は地域の夏祭りや敬老会、近くの事業所のイベントに参加され地域の人との交流しておられます。事業所主催の夏祭りでは実行委員会を立ち上げられ、職員が地域にチラシを配布されたり、法人からの参加や多くの住民や家族が参加され、地域との連携を深めておられます。利用者の外出支援をできるだけ増やしておられ、「外の空気を吸いたい」という利用者と一緒に散歩や外気浴、月に1回はユニットごとに夕食を兼ねた外出など、戸外に出かけられるように支援しておられます。専属の調理スタッフを確保され、食事は手づくりで旬の物、温かい物、美味しい物を提供され、利用者の喜びや楽しみにつなげておられます。職員の休憩場所や休憩時間を確保され、働きやすい職場環境を整えるとともに、職員の特長を生かす委員会活動の推進など各自が向上心を持って働けるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「錦帯橋のように私たちは地域の架け橋になります」という事業所独自の理念を各ユニットに掲示し、又法人理念との併用・「クレド」の確認等、各理念の実践に努めております。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は全体会議で理念の確認をして共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、町内会の清掃・運営推進会議などの参加の声掛けを行っています。地域への日常的な散歩を行っており、近所のスーパーなどへの買い物も行っています。又近隣幼稚園の定期訪問で交流も実践しております。	自治会に加入し、職員は川の清掃や会議に出席している。利用者は散歩やスーパーなどへの買い物、地域の夏祭り、敬老会、他施設のイベントに参加し地域の人と交流している。事業所の夏祭りは、実行委員会を立ち上げ、チラシを職員で手分けして配布し、法人からの参加や地域の人や家族を含め100人位の参加があり、交流している。近隣の幼稚園児が定期的に来訪し、交流している。近所から野菜や花の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会に入会させて頂き、地域の夏祭りや、敬老のつどい等に進んで参加しております。又ご家族様・地域の方々からの相談・問い合わせに対し、真摯に対応しております。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回同様、評価して頂いた内容を全スタッフに周知し、又今回は全スタッフが前回内容を参考に作成に携わってもらっています。	管理者が評価の意義を説明し、前回の評価結果を参考にして、今年度は全職員に自己評価をするための書類を配布し、記入してもらって話し合い、まとめたものを管理者が確認している。評価を活かして改善に取り組むよう努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での規定で、2ヶ月に1回必ず運営推進会議の開催を掲げていますので、行うようにしています。緊急時における協力・夏祭りの呼びかけ・災害時での地域連携・AEDの設置・非常食の提供等、会議を有効に活用すべく取り組んでいます。	新たに利用者の後見人をメンバーに加え、退居者の家族や利用者家族全員に案内状を配布し、2ヶ月に1回開催している。行事報告や事故報告、夏祭りへの参加の呼びかけ、緊急時や災害時の協力、事業所に設置しているAEDの周知、非常食の提供などをして、意見交換をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等あれば、電話や直接出向いて助言を 得ています。又、市からの伝達等に関して も、メール・FAX等で随時確認し、市が主催 する集団指導にも参加しております。	市担当課とは運営推進会議出席時や電話、 メール、ファックスなどで事業所の実情など伝 え、協力関係を築くように取り組んでいる。担 当課主催の地域密着型サービス事業所担当 者会議に出席し、意見交換などして情報を共 有している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束 だけでなく、言葉による拘束もあると全体会 議などの時間を使い話し合いを行っていま す。又現場内でも拘束に繋がらない様、都 度指導しています。	マニュアルがあり、全体会議で身体拘束をし ないケアの実践や言葉による身体拘束をしな いケアを含めて研修をしており、職員は拘束 をしないケアに取り組んでいる。2階の出入り 口は転落防止に備え、職員の目の届かない 時は施錠し、1階の出入り口や玄関は施錠し ていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を 払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投 薬等の虐待にあたる勉強会を行っています。 又些細な傷に関しても、必ず状況を確認 し、虐待に繋がらないケアを実践しており ます。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	現在、1名の方が成年後見人制度を利用し ています。機会があれば、地域の方も含めた 「勉強会」も検討しています。又、研修等あれ ば、スタッフの参加も考えております。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の 読みあわせを行い、都度不明点などの確認 を行っております。又、改定等の説明、疑問 を抱かれておられるご家族様へは、個別で 説明をし、理解していただいております。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱 の設置もしています。また、本社主催のご家 族様アンケートを毎年実施しており、ホーム にフィードバックされ改善に向けています。 ご家族様の意見を元にケアプランを作成、 日々のケアに繋がっています。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め 周知している。意見箱を設置している。本社 主催の家族アンケートを毎年実施し、意見は 事業所にフィードバックしている。家族会を年 2回開催し、家族より、居室の清掃や外出回 数について等の意見があり、運営に反映させ ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回スタッフとの個人面談を実施し、全スタッフから意見・要望等を聞き取りしております。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。又都度現場に足を運び、個別にスタッフからの意見収集をしております。	管理者は毎月1回の全体会議やユニット会議、年2回の個人面接で職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。運営に反映させるほどの意見は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を通じて、それぞれが「やりたい事・特技」を委員会として実践しています。大きな行事には、実行委員会を設け、全員で1つの行事に取り組み、達成感を感じてもらっています。無資格のスタッフには、会社制度を利用した資格取得を促しております。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内があれば、都度回覧し参加を促しています。又、毎月本社からの資料を基に、内部研修を実施し、新卒者に対しては、毎月エリア新卒者と合同での研修を実施しています。	外部研修は職員に情報を提供し、参加の機会を確保している。昨年は4名が参加し、受講後は復命をして、職員間で共有している。法人研修は毎年1回開催し、新人研修も法人で実施している。内部研修は研修計画に沿って毎月実施し、実施後は毎回アンケートを行い、アンケート結果にコメントをつけて職員に返しているなど、働きながら学べるように支援している。法人内でフォトコンテスト、レシピコンテスト、ガーデニングコンテスト、匠自慢コンテストなどの表彰制度があり、昨年はレシピコンテストで最優秀賞となるなど職員の意欲向上につながっている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市のグループホーム協議会に入会させて頂き、情報共有しています。又、定期的に居宅・老健等に訪問をし、情報交換・収集に努めております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき、ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時には、ご家族様が不安なく利用者様を入居出来るよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしています。又、サービスの変更(入院等)があった時などは、都度相談し、変更しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の不安な気持ちなど察し、ゆっくりと傾聴し共感できるような関係作りを行っています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日々の状況など、毎月の新聞発行と共に状況のお手紙を送付している。ご家族様来所時には、コミュニケーションを通して細かな状況を伝えるようにしています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院などに出かける機会・入居前に住んでおられた町へのドライブ、又馴染みの関係の方の来訪などがあります。今後も関係が継続していけるような関係作りを支援してまいります。	家族や知人、友人の来訪がある他、入居前に住んでいたところへのドライブ、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や買い物、法事への出席、外泊、年賀状を出す支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出来る合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を唄ったりする個別レクリエーション等通じて仲良く出来る様、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に、お引越しをされた際、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。退居後も、運営推進会議・ホーム訪問等継続してお越しいただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話の中から、意向をお聞きしています。そして、ご家族様との会話の中から意向の把握に努めており、コミュニケーションの難しい入居者様の把握についてはご家族様に聞き、把握に努めています。	日々の関わりのなかでの利用者との会話や言葉から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、アセスメントシートや家族の話などを参考に、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。又各ユニットに「健康シート」を設置し、ご入居者様の健康管理を共有しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に回のユニット毎のカンファレンスや半年後とのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成、その他年2回の家族会での意見を元に、計画作成を行っています。	法人規定の記録様式に沿って、本人や家族の要望、主治医の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。月1回のユニット毎のカンファレンスを実施している他、6ヶ月毎のモニタリングを実施し見直しをしている他、状況に変化が生じた時はその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・日報に加え、申し送りノート・健康シート等などで、職員間での情報共有を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご希望に添えるよう来所時などにコミュニケーションを図り、意見を聞くようにしています。ご本人様との会話の中で、希望に添えるものはないかと日々支援しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物に一緒にお連れしています。又、近隣幼稚園との交流会やボランティアの受け入れをし、楽しく生活できるよう支援しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院であるいしい記念病院・山元歯科に加え、2週間に1度のいしいケアクリニックDrによる往診があります。往診医とは、24時間連絡可能で緊急時も駆けつけて下さる関係が出来ています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、月に2回の訪問診療がある。歯科受診は事業所で受診の支援をし、皮膚科や眼科は家族の協力を得て受診の支援をしている。夜間や休日は24時間対応できるように医療機関と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の24時間連絡体制と社内雇用の看護師との連携体制で利用者様の定期的な体調管理を行っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えています。また、入居者様が入院中は、スタッフがお見舞いにも行かせて頂いています。病院での状況を聞き、当ホームスタッフに伝えおり、退院後は状況に応じたケアプランの元、ケアをしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族のご希望に添えるよう、グループホームが最後の家と思って頂けるよう、契約時にお話をしています。又折をみては、ご家族様の「想い」を確認しており、終末期の方に対しては、ご家族・往診医と連携し、対応しています。	契約時に「看取り介護にかかる指針」で、事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は家族の希望を大切に、主治医や看護師、管理者等関係者で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。終末期のケアについてミーティングで度々話し合い職員間で共有を図っている他、看取り時期が迫っている場合には、家族、主治医、看護師、管理者で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故などのマニュアルが社内であり、マニュアルに沿って事故防止に努めています。また、月1回の全体(スタッフ)会議の際に勉強会を実施しています。避難訓練時は、布団を使用しての降下訓練や、吸引ノズルの講習は毎年行っております。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、再発防止に取り組んでいる。法人の事故マニュアルに沿って、月1回の全体会議で勉強会を実施している。看護師による誤嚥時の吸引ノズルの講習、AEDの使い方講習、利用者一人ひとりの状態に応じた研修しているが、全ての職員が急変時の対応や応急手当の実践力を身につけるまでには至っていない。	・すべての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。地域の方の消防訓練への参加もあり、運営推進会議等での議題にあげさせて頂き、常時相談しております。	年1回は消防署の協力を得て避難訓練を実施している他、年1回は事業所独自で非常階段や布団を使って階段を下る避難方法、スプリンクラーの止め方、非常ベルの復旧方法、エレベータートランクルームの開閉などの実践的な訓練を行っている。運営推進会議で防災について話し合い、自治会の連絡網の中に事業所が入っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「入居者様は人生の大先輩」と尊敬する想いで日々関わらせていただいています。又プライバシー保護の為の研修や、不適切なケア・スタッフ都合による対応等に対し、啓発・指導など行っています。	内部研修で学び、職員は理解してプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。記録物は事務所内に保管し、最終的には法人事務所で保管している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の心の声に耳を傾け、口に出せない要望や悲しみ・苦しみなど受容できる様、心掛けております。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意思を尊重し、その人らしい自立した生活が安心して送れる様、「ちょっと待つて」をしないよう心掛けています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・入浴後入居者様が着たいと思う服装と一緒に選ぶなどし、いつも若々しい気持ちで過ごせる様にしております。又、お出かけに行く際には、お化粧品などの支援も行っています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で決められた物を使用しています。又、食事の盛り付けやトレイ拭き、食器洗いなどスタッフと共にしております。女性の方は、主婦の大先輩なので、敬意を表すようにしております。	調理専属のスタッフを確保し、法人本社の栄養士が立てたバランスの取れた献立で、事業所の畑で採れた野菜や旬の食材を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、調理、盛り付け、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。月2回のおやつづくり(ホットケーキ、たこ焼き、お好み焼き、かき氷のシロップがけなど)、季節行事のちらし寿司やいなり寿司、誕生日の献立の他、ユニット毎に月1回外食を楽しむ機会を設けているなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合わせて食事の盛り付け量・食器等で工夫しております。又、苦手な食べ物などメニュー変更し、入居者様が完食できるよう支援を行っています。水分摂取量に関しては、都度量を記入し、把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、ご自身で出来る事は行っていただいています。義歯の衛生管理も都度行っています。又、唾液がしっかり出る様、意識して話しかけております。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用に関しては、安易にオムツを使用せず、定期トイレ誘導・パット使用等ご家族様と相談しながら、段階を踏んで検討しております。又、排泄チェック表で、排泄パターンの把握・誘導の目安として活用し、常に「自立」を意識したり、メーカーの方によるオムツの当て方の研修を実施しております。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェック表から個々の排便状況を把握し、各出社時申し送り時などに情報の共有を行っています。又ラジオ体操・風船バレーなど適度な運動をして、便秘予防に取り組んでいます。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回の入浴支援を行っております。入浴を拒まれる方へは、時間・曜日別のスタッフが交代するなどして、無理強いくなく入浴して頂ける様、支援しています。夜間入浴に関しては、今後の課題として認識しております。	入浴は、10時30分から11時30分の間と15時から16時30分頃の間可能で、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2回から3回の入浴の支援をしている。希望があれば毎日入浴できる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局薬剤師・看護師等から都度必要に応じ、確認をしています。又服薬マニュアルに添った服薬・変化が見られた際の様子観察など、「健康シート」に記載し、継続した対応を心がけています。又その人に合った服薬方法を実践しています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事準備・片付け・洗濯・掃除等、入居者様の嗜好などをご家族にお聞きし、ホームお手伝い等して頂けるよう支援しています。又将棋が好きな方には時間を見つけ、スタッフとコミュニケーションを図りながら指しております。	トランプ、オセロ、将棋、カラオケ、テレビの将棋番組の視聴、新聞を読む、折り込みチラシをみる、新聞を取りに行く、買物、モップかけ、部屋の掃除、食事の準備、片付け、洗濯、花の水やり、野菜づくり、草取り、水やり、ドライブや外食など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・散歩等、ご入居者様にお声を掛け、出来る限り外出の機会を設けております。個別に馴染みの美容室でのカットや、外の空気を吸いたいとおっしゃられる時は、付き添わせていただいております。	「外の空気を吸いたい」という利用者と一緒に散歩や戸外に出かけたり、買い物や月1回はユニット毎に全員参加で外食を兼ねての外出、季節の花見、ドライブ（錦帯橋、由宇の潮風公園、宮島もみじ饅頭づくりの見学など）、個別の馴染みの美容院の利用、家族の協力を得て外出、外泊など、出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。都度ご本人様が要望される物品を確認・一緒に買い物等へ行っております。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていただき、送付しています。ご本人様が、電話を掛けたい時にも速やかに対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や廊下等に、行事・日常生活の様子など写真掲示し、ご入居者様やご家族様が楽しめる様、工夫しております。裏の畑や玄関先には季節の野菜・花を植え、ご利用者様と一緒に水遣り等しながら、季節感を感じる様にしております。	共用の廊下や階段には月毎のちぎり絵や張り絵を飾ってある。ユニット毎の廊下には利用者の日常生活や外出時の写真を掲示し、コメントが加えられ、思い出の一コマになっている。オープンキッチンから調理の音や匂いがして生活感を感じることができる他、家族からの差し入れの花を飾り季節感を感じることができる。加湿器を置いて湿度に配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたり、他ユニットの方との交流されたり等、思い思いに過ごしていただいております。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に、ご家族様にお話しさせて頂き、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。	ベット、布団、テレビ、タンス、衣装掛け、絨緞、ソファなど使い慣れたものや家族からの贈り物、写真などを持ち込み、居心地よく過ごせるような居室づくりの工夫をしてしる。2名の利用者が携帯電話を持っている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、トイレ・居室にコールを設置しております。居室で過ごされる時には、いつでもコールを押せるような配慮をし、夜間は居室内・廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っております。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 愛の家グループホーム岩国平田

作成日： 平成 27 年 5 月 8 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え	全スタッフの応急手当・初期対応の習得・訓練の実施を通じ、実践力の向上	・応急手当・初期対応の研修を全体会議・ユニット会議等通じ定期的に実施していく。 ・個々の面談を通じ、不安となっている要因を聞き取り、必要に応じ外部講習への参加を促す。	6ヶ月
2	36	災害時等地域との協力体制の構築	緊急時、地域住民の方からの協力体制の構築	ホーム内イベント・自治会行事参加・近隣への散歩等通じて、ご利用者様の状況・ホーム内ハード面等を地域の方に理解していただく。その上で、災害時の協力体制の構築について、運営推進会議等で議題提供・関係構築を図る。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。